

令和6年度多摩市気候市民会議実施結果の報告書



令和7年5月

多摩市

目次

1	多摩市気候市民会議の経過、目的及び本報告書の内容	1
(1)	経過	1
(2)	目的	1
(3)	本報告書の内容	1
2	令和6年度の目標と流れ	2
3	参加者	3
(1)	参加対象者	3
(2)	参加人数	3
(3)	応募者の構成	4
4	合同気候市民会議（多摩市、日野市の共催）	5
(1)	実施概要	5
(2)	地域を超えて進める、気候アクションのアイデア（合同気候市民会議の成果）	5
5	多摩市気候市民会議（多摩市単独開催）	8
(1)	実施概要	8
(2)	1日目のプログラム及びグループワークの進め方	8
(3)	1日目のグループワークのまとめ	11
(3)	2日目のプログラム及びグループワークの進め方	16
(4)	2日目のグループワークのまとめ（多摩市気候市民会議の成果）	17
(5)	多摩エコ・フェスタ2025での展示・発表（成果の展示・発表）	25
6	気候 YOUTH 会議（多摩市、府中市、日野市の共催）	26
(1)	実施概要	26
(2)	1日目及び2日目のグループワークのまとめ（気候 YOUTH 会議の成果）	28
7	アンケートの結果	36
(1)	合同気候市民会議と多摩市気候市民会議についてのアンケート	36
(2)	気候 YOUTH 会議についてのアンケート	39

1 多摩市気候市民会議の経過、目的及び本報告書の内容

(1) 経過

気候市民会議とは、無作為抽出で集められた幅広い年代の市民が、専門的な知見をバランスよく取り入れながら、気候変動対策について熟議を交わす、新しいスタイルの会議になります。様々な年代、多様な人々によって取りまとめられた意思決定は万人に受け入れやすい、という特徴があると言われています。この取組は平成 31 年頃からフランスやイギリスで始まり、国内でも令和 2 年に「気候市民会議さっぽろ」を皮切りに、いまでは全国に取組が広がっています。

本市では、はじめての気候市民会議をまだ先駆けの時期である令和 5 年に開催し、脱炭素社会への転換に向けた気候変動対策の取組み 145 件の提案を受けました。そのうち 77 件については令和 6 年 3 月に策定した第 3 次多摩市みどりと環境基本計画（計画期間：令和 6 年度～令和 15 年度）に反映しました。

(2) 目的

令和 6 年度以降は、第 3 次多摩市みどりと環境基本計画に基づき、脱炭素社会への転換に向けて市民一人ひとりの行動で社会を変え、社会の変化がさらなる意識と行動の変革につながるムーブメントの醸成を目指します。その一環として、多摩市気候市民会議を引き続き開催し、同計画に反映した市民提案 77 件の中から市民自ら取り組めるものを参加者主体で選び出して実行することを毎年度実施します。

令和 6 年度は、試行段階として、実行の形を予めポスターの作成に決め、参加者が市民・事業者に行動変容を呼びかけるものの選択とポスターを作成することを目的としました。また、地域を超えて行動変容を広げる試みとして、近隣市と合同での気候市民会議（多摩市、日野市の共催）と気候 YOUTH 会議（多摩市、府中市、日野市の共催）を開催しました。

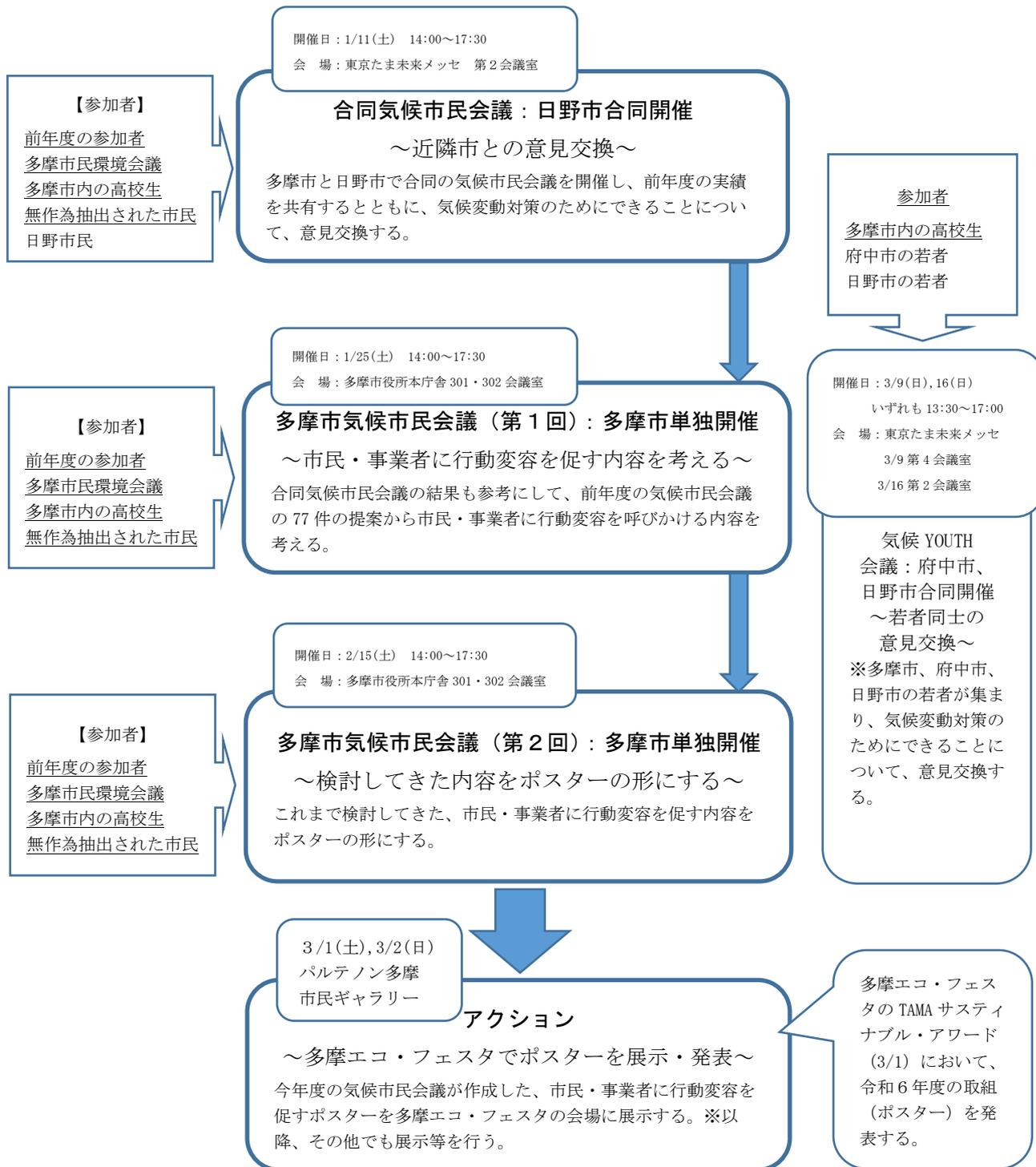
(3) 本報告書の内容

本市単独開催の多摩市気候市民会議と近隣市との合同で開催した気候市民会議（以下、「合同気候市民会議」という）及び気候 YOUTH 会議について、本市において一連の流れのひとまとまりとして位置づけていることから、いずれも報告書の対象とします。ただし、合同気候市民会議と気候 YOUTH 会議については、別に報告書を作成しているため、本報告書においては必要最低限の概要にとどめるものとします。

2 令和6年度の目標と流れ

令和6年度多摩市気候市民会議の目標

令和5年度の多摩市気候市民会議の77件の提案から、自ら取り組めるものを選び、市民・事業者に行動変容を促す内容をポスターの形でまとめ、ポスターをエコ・フェスタに展示する。



3 参加者

(1) 参加対象者

① 無作為抽出された市民

幅広い世代、環境危機に関心がある人もない人にも参加していただくことで、一方に偏らないバランスの取れた結果が出やすくなります。また、その結果は、参加者以外の市民、事業者に対して説得力を持たせやすいことが期待できます。

② 市内の高等学校の生徒（学校推薦）

気候変動対策は将来にわたって取り組むべきものであることから、若いうちに関心を持ち、学習・実践を通じて気候危機を当事者として意識することが重要です。高等学校等の生徒が参加することで、参加する本人だけでなく、各学校に持ち帰って授業等での発表により他の生徒も触発されることが期待できます。

③ 令和5年度の多摩市気候市民会議の参加者

参加者の中に経験者がいることで、他の参加者にこれまでの経験・経過を共有して、円滑な議論等が期待できます。

④ 多摩市民環境会議のメンバー

当該団体は長年にわたり市の事業を協働で行っている中で、メンバーの高齢化や団体の新陳代謝が図れていない課題があります。気候市民会議に参加することで、これまでの経験の共有、気候市民会議の参加者の当該団体への参加等が期待できます。

(2) 参加人数

参加者内訳	応募人数	出席人数（実人数）		
		合同気候市民会議	多摩市気候市民会議	気候 YOUTH 会議
無作為抽出した市民（16歳～59歳） ※1,000名の無作為抽出を実施	12人	8人	7人	—
市内の高等学校の生徒（学校推薦）	12人	10人	12人	10人
令和5年度の気候市民会議の参加者	4人	3人	3人	—
多摩市民環境会議のメンバー	4人	3人	4人	—
合計	32人	24人	26人	10人

※ 気候 YOUTH 会議は、市内の高等学校の生徒（学校推薦）から本人の意向を踏まえて参加対象者を選抜し、合同気候市民会議と多摩市気候市民会議は、応募者全員を参加対象者としました。

(3) 応募者の構成

① 性別

性別	人数	割合
男性	24人	75%
女性	8人	25%
合計	32人	100%

② 年代（令和6年12月25日時点（参加決定通知日））

年代	人数	割合
10代	14人	44%
20代	3人	9%
30代	2人	6%
40代	4人	13%
50代	3人	9%
60代	2人	6%
70代	3人	9%
80代	1人	3%
合計	32人	99%

※ 端数処理のため合計は100%ならない。

4 合同気候市民会議（多摩市、日野市の共催）

（1）実施概要

日時	令和7年1月11日（土）14時00分～17時30分
場所	東京たま未来メッセ 第2会議室
テーマ	地域を超えて進める、気候アクションを考えよう！
参加人数	47人（多摩市24人、日野市23人）
概要	多摩市と日野市のそれぞれの令和5年度の気候市民会議での提案内容を共有し、地域を超えて、連携して取り組むべきアクションを検討し、「モノ（生産・消費など）」「モノ（ごみ・資源循環など）」「モビリティ」「エネルギー」の4つのテーマにグループを分けて、アイデアを出し合いました。

当日のプログラム

14:00	気候市民会議 NEXT の目的と進め方（10分）
14:10	インスピレーショントーク（30分） 地球温暖化の世界的な現状と地域主導の気候アクションの可能性 講師：東京大学未来ビジョン研究センター 教授 江守 正多 氏
14:40	各市の気候市民会議の成果（20分）
15:00	休憩（10分）
15:10	連携して取り組むテーマ（案）（10分）
15:20	グループワーク（85分） 地域を超えて進める、気候アクションを考えよう！
16:45	全体共有・全体シール投票（30分）
17:15	まとめ（15分）
17:30	終了

（2）地域を超えて進める、気候アクションのアイデア（合同気候市民会議の成果）

- ① グループの構成
参加者が希望するテーマを踏まえ、属性（居住地、年齢、性別）をバランスよくミックスしたグループを構成しました。（全10グループ）
- ② テーマ分け
令和5年度に各市の気候市民会議から提案された取組内容の共通点を踏まえ、連携して取り組めるアクションについて検討するため、「モノ（生産・消費など）」、「モノ（ごみ・資源循環など）」、「モビリティ」及び「エネルギー」の4つのテーマにグループを分けて、取組のアイデアを出し合いました。
- ③ グループワークの進め方
グループワークは、大きく以下の4つのステップで議論を進めました。
 - ① 私たちのまちの資源の共有
お互いのまちの資源や特徴を出し合い、連携の視野を広げました。
 - ② 地域を超えて進める、気候アクションのアイデアの共有
グループに割り振られたテーマに沿って取組アイデアを付箋に書き出し、共有しました。

③ シール投票

シール投票（一人3枚）で、両市で取り組むことが大切だと思ったアイデアを可視化し、議論を深めました。

④ アイデアのまとめ

シール投票の結果を踏まえて3つのアイデアに絞り、内容を深めながら、短冊状の「まとめシート」にまとめました。

最後に各グループがアイデアのまとめを発表し、「実現してほしい」と思ったアイデアに対して、参加者全体でシール投票を行いました。

④ グループ別のまとめ

	テーマ	取組アイデアの内容	グループが推す理由	全体シール投票	
				合計	一押し
1グループ	モノ(生産・消費など)	包装を簡素化する 卵のプラスチック容器をやめる	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック容器を減らせる ・環境配慮によりスーパーのイメージアップにつながる 	22	12
		地元食材（規格外野菜）を地元で食べる	<ul style="list-style-type: none"> ・規格外の野菜が捨てられているため、活用したい ・フードロスにつながる ・地元の農家、地元の野菜（のらぼう菜など）を知ること 	7	1
		書籍や学校の資料をデジタル化する	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を持ち運ばなくていい、荷物が減るため、部活の荷物が増やせて良い ・紙の消費を削減できる ・使いやすい 	2	0
2グループ	モノ(生産・消費など)	共通資源である「川」を活かして散歩道に給水スポットをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・「川」が共通の資源であり、自然が豊か ・熱中症予防もできる ・多摩市ではマイボトル普及啓発のボランティア団体が活動しており、連携して取り組めると良い 	10	4
		不要になった大型家具や楽器・花・苗などを保育園などの公共施設とマッチングして再利用する	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、不要になった物の引き取り方に課題がある ・物の引き取りから仕組みを考えていけると良い 	1	0
		両市のスーパーやコンビニなどに地元野菜の販売コーナーをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのまちへの愛着や、魅力の再確認にもつながる 	6	0
3グループ	モノ(ごみ・資源循環など)	日野市のごみ分別ルールをもっと他市や市内にPR・シェアする	<ul style="list-style-type: none"> ・日野市のルールを当たり前だと思っていたが、他市は大雑把な分別になっているため少し残念に思う。リサイクルを進めるために他市にも広げていきたい ・なぜこのような分別になっているのか、自分のごみの出し方が正しいのかわからないことがある。PRを通してごみの分別のことをもっと深く理解する。 	4	0
		日野市・多摩市合同マラソン大会を開催する	<ul style="list-style-type: none"> ・わざわざフードバンクを訪ねずに、みんなが気軽に使える使う事ができる ・日野市・多摩市は川が連続してランニングしやすくイベントとして適当 ・マラソン大会には他県市からも多く参加する。フードロスやフードバンクを設置すれば、PRの機会にもなる 	21	3
		フードバンクを広めるため、食料品店やコンビニなどを身近で訪ね	<ul style="list-style-type: none"> ・今はフードバンクをやっている場所が限られていて、期限ギリギリのものは受け付けられず、十分循環できていない 	7	2

	テーマ	取組アイデアの内容	グループが推す理由	全体シール投票	
				合計	一押し
		やすい場所につくる	・おしゃれな農協のレストランや身近な食料品店、コンビニなど身近な場所にあれば、みんなも気軽に使いやすくなり、食品の流通もしやすくなる。ごみの削減、断捨離、貧困対策、フードロスを一挙に解決できる		
4 グループ	モノ(ごみ・資源など)	学校でごみ回収や分別について学び、楽しくアクションして体験する機会を設ける	・小さい頃から学ぶことで当たり前にし、習慣化する	4	2
		給水スポットを多摩市と日野市で拡大する	・それぞれの自治体ですでに実施している取組なので、連携して実現・拡大しやすいため	15	1
		中古品の拠点など、不用品を譲る場や機会を増やす	・捨てたものが利活用される、という安心感をもってモノを処分できるしくみをつくる ・リユースを推進することで、不用品を減らす効果に期待する	3	0
5 グループ	モビリティ	安全な自転車専用レーンを増やして、自転車で移動しやすくする	・自治体が連携して取り組むと使いやすい道路になる	11	0
		駅前に店や公共施設を充実することで、多摩モノレールの利用者を増やす	・2市を通る鉄道があるが、ポテンシャルが活かされていない ・利用者視点になっていないので、アンケートでニーズを把握する ・国や東京都と連携して工事を進める	12	3
		バス停の間隔の短いコミュニティバスを住宅街で運行する	・バス停の場所が分かりにくい、バス停がたくさんあると存在がすぐに分かるため ・利用者にとって利用しやすい安価なバスにすることで、利用者を増やしてバス会社が儲かり、運転手を増やすことができる	2	0
6 グループ	モビリティ	公共交通の縦の動線が弱いため、コミュニティバスを含めたバスルートの検討で地域に根ざした縦の動線を確保したい	・病院に行く際に、公共交通で行く場合は遠回りや乗り継ぎをしなければならない ・地域内の交通網の充実が地域の活性化につながる	2	0
		日野市・多摩市の各地を歩くとポケモンGOのようにアイテムが手に入るなど、歩数や公共交通利用のポイントが付与されるアプリで、徒歩や公共交通利用を動機づける	・ポイントは日野市や多摩市のお店で買い物に利用できると、地域活性化にもつながる ・日野市・多摩市の名所を知るきっかけづくりにもなる	7	0
		電動アシスト自転車を含む自転車購入補助金で自転車に乗るきっかけづくりをする	・何かしらのインセンティブがないと行動変容しにくい ・日野市・多摩市ともに山坂が多いため電動アシスト自転車は便利 ・健康づくりにもつながる ・移動のコストが減る	18	2

※ 取組アイデアの内容に対して、参加者1人につき「一番実現してほしい(一押し)」1票、「実現してほしい」4票を投票しました。

5 多摩市気候市民会議（多摩市単独開催）

（1）実施概要

	1 日目	2 日目
日時	令和 7 年 1 月 25 日（土） 14 時 00 分～17 時 30 分	令和 7 年 2 月 15 日（土） 14 時 00 分～17 時 30 分
場所	多摩市役所本庁舎 3 階 301・302 会議室	多摩市役所本庁舎 3 階 301・302 会議室
参加人数	26 人	22 人
概要	合同気候市民会議の結果も参考にして、令和 5 年度の多摩市気候市民会議の 77 件の提案から市民・事業者へ行動変容を呼びかける内容を考えました。	1 日目で検討してきた、市民・事業者へ行動変容を促す内容をポスターの形にしました。

（2）1 日目のプログラム及びグループワークの進め方

① プログラム

14:00 オリエンテーション（15 分）

14:15 情報提供（50 分）

「企業が行っている気候変動対策」

講師：東京ガス株式会社東京西支店 副支店長 古後 康之 氏

「市民ができる気候変動対策」

講師：株式会社これやこの 代表取締役 関根 久仁子 氏

学生団体ニューコロンプス 栗本 大馳 氏

15:05 休憩（10 分）

15:15 グループワークルール説明（10 分）

15:25 グループワーク（ワールドカフェ方式）（95 分）

16:55 全体共有（20 分）

17:25 まとめ（5 分）

17:30 終了

② グループワークの進め方

5 グループに分かれて、令和 5 年度の多摩市気候市民会議の 77 件の提案の中から 1 つ取組項目を選び、自分たちにできそうな（他の市民や事業者へ呼びかけることができそうな）気候変動対策を検討しました。

グループワークは「ワールドカフェ方式」により行い、検討した内容は「えんたくん」に書き留めました。

ワールドカフェ方式

『カフェ』のようなリラックスした雰囲気の中で、少人数に分かれたテーブルで自由な対話を行い、他のテーブルとメンバーをシャッフルして対話を続けることにより、参加したメンバーの意見や知識を集めることができる対話手法の一つです。

【メリット】自分の意見を伝えやすい 多様な意見を共有できる

えんたくん

直径 120 cm の円盤状のダンボールとその上に乗せる紙がセットになっています。5 人から 6 人程度が車座になってひざの上にダンボールを乗せてテーブル代わりにします。その上に乗せた紙に話し合いをした内容を書き留めます。輪になって座ると参加者の間で序列のない対等な関係が作りやすくなるので、課題の解決や合意形成を円滑に行うことができます。

【利用方法】付箋を貼ったり 直接書いたり

ワールドカフェ方式で第 4 ラウンドまで検討しました。

第1ラウンド(R1)

自分たちにできそうなことを考える

各グループで令和5年度の多摩市気候市民会議の77件の提案の中から1つ取組項目を選び、「これなら自分たちにできそう!」と思うものについて、えんたくんに自由に書き込みながら話し合います。



〇〇なら工夫すればできるかも!



うちの会社ではこんなことに取り組んでるよ!



学校みんなでやれば効果大!

第1ラウンドの時間は20分です。

第2ラウンド(R2)

移動先で別のテーマを話し合う

各テーブルに**ホスト**だけを残して、他のメンバーは**旅人**とし別のテーブルに移動します。ホストは自分のテーブルで出されたアイデアを説明し、旅人はそのテーブルで選ばれた取組項目について自由に話し合いを行います。

うちのグループでは〇〇についてこんな意見が出ました



このテーマならこんなやり方もありじゃない?

第2ラウンドの時間は20分です。

第3ラウンド(R3)

移動先で別のテーマを話し合う(2回目)

再度、各テーブルに**ホスト**だけを残して、他のメンバーは**旅人**とし別のテーブルに移動します。ホストが自分のテーブルでの取組項目、対話の内容について説明し、自由に話し合いを行います。



先日の合同気候市民会議ではこんな意見もあったよ

第3ラウンドの時間は20分です。

第4ラウンド(R4)

気づきの共有

旅人はR1のテーブルに戻ります。**ホスト**はR2、R3で出されたアイデアについて共有します。各グループはR1で選んだ取組項目について、**自分はなにができるか、どんな行動を起こしたいか、考えます。**



このアイデアってよく聞くけど周りで取り組んでる人見ないよね。なんだろう??

第4ラウンドの時間は30分です。

18

第4ラウンド(R4)

まとめ

各グループで検討した内容(誰に?こんな行動を起こしたい!こんな効果が期待できる!)をまとめます。

2日目の気候市民会議では、本格的にポスターを作成していきます!!

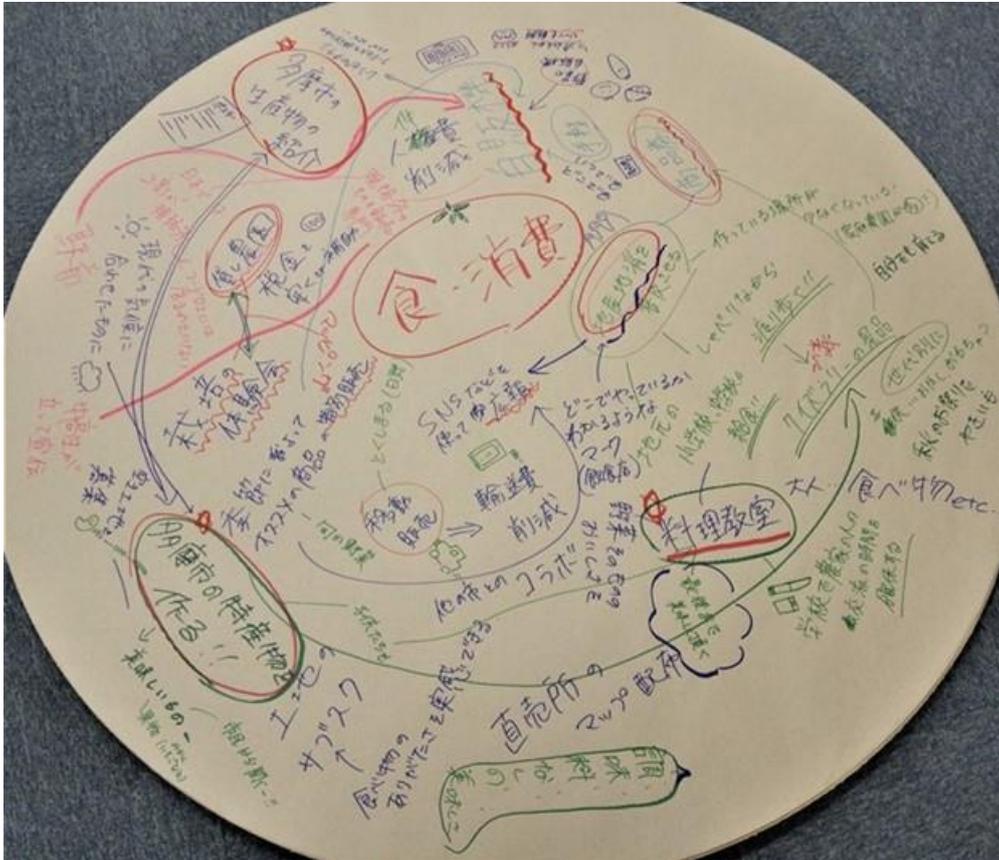
19

(3) 1日目のグループワークのまとめ

赤グループ

選んだ取組項目：【食・消費】地元のお店で買うことで物流コスト、CO₂削減につながる。地域の経済がまわる。

「えんたくん」でのまとめ



〈要約〉

消費者の意識・行動

食への関心（どこで作られているか、安心・安全など）、購買行動（直売所・通販・マーケット）、環境への配慮（エコ・食品ロス削減）

生産者の取り組み

地産地消の推進、特産品の開発、直売所の運営、食品の安全管理

食育と教育

料理教室の開催、学校での食育授業、伝統的な食文化の継承

販売・流通

直売所の活用、マーケット・イベント、ネット通販の活用

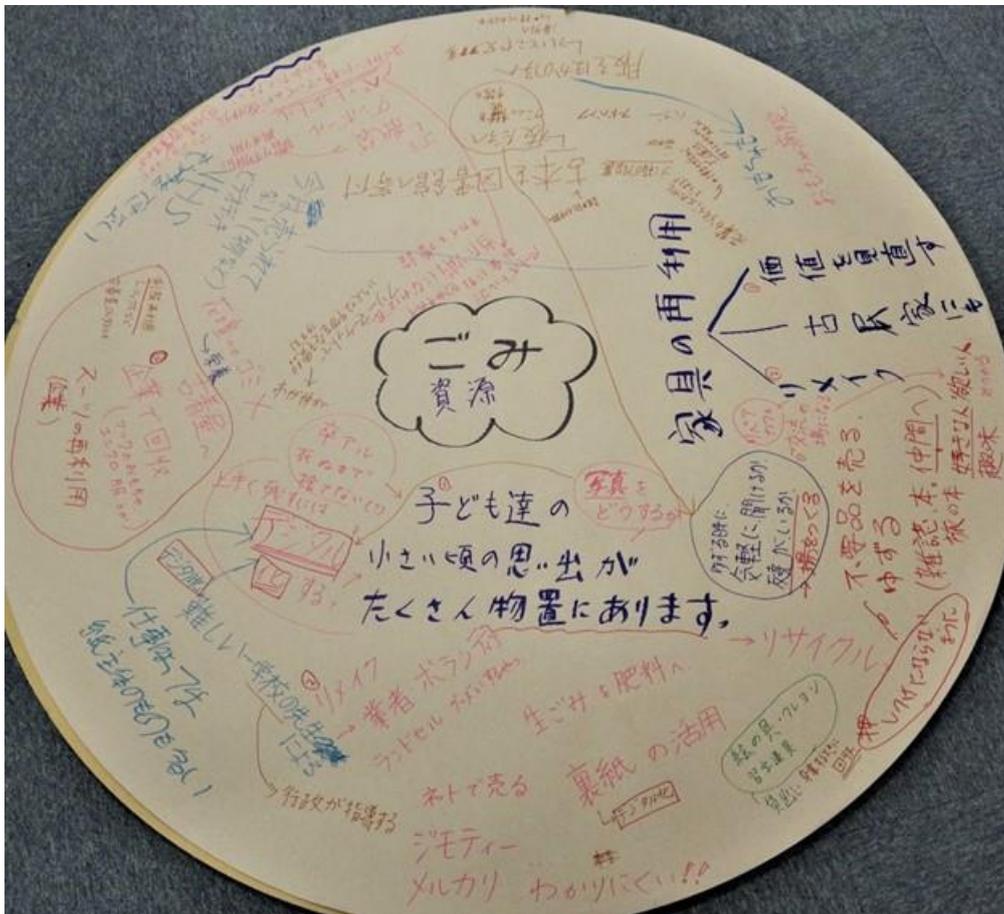
課題と解決策

食品ロスの問題、価格と品質のバランス、生産者と消費者の交流不足

青グループ

選んだ取組項目：【ごみ・資源循環】使いたい人に譲る、寄付をする、リメイクする。

「えんたくん」でのまとめ



〈要約〉

ごみの再利用・リサイクル

家具の再利用、修理して使用（修理→再使用）、リメイク・アップサイクル、古市場の活用（リサイクルショップ、古着屋）、必要な人へ寄付、衣類・布製品の活用、古着のリメイク（バッグ・小物へ）、スーツの再利用（就職支援など）、繊維をリサイクル（ウエスや断熱材へ）、食品の再利用、生ごみ→肥料化（コンポスト）、余剰食品の寄付（フードバンク）

ごみの削減

無駄な消費を減らす、必要なものだけ買う、使い捨て製品の見直し（エコバッグ、マイボトル）、修理・再利用の推奨、企業・自治体の取り組み、ごみ削減キャンペーン、使い捨てプラスチックの削減

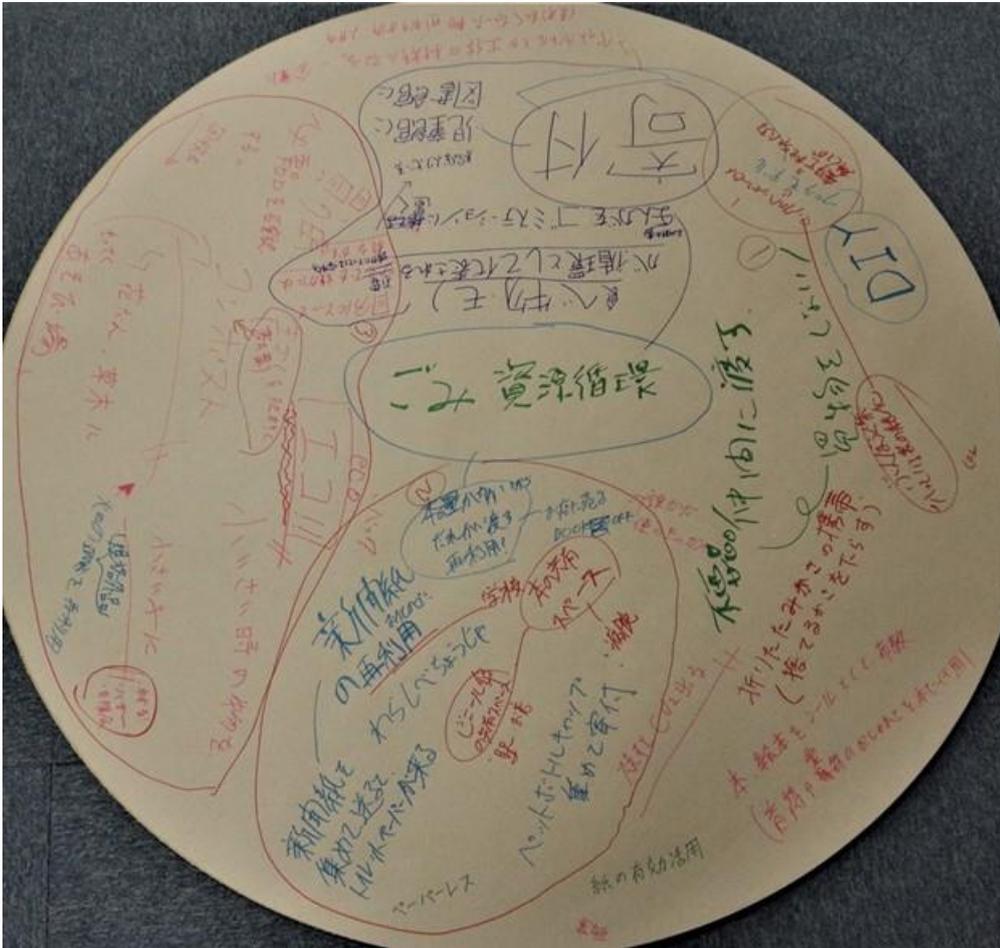
子どもたちの意識向上

環境教育の推進、学校でのリサイクル教育、ワークショップ（ごみ分別体験）、思い出の品の活用、作品・思い出の品をデジタル化（写真・スキャン）、使えるものは寄付やリメイク

黄グループ

選んだ取組項目：【ごみ・資源循環】 ごみの削減が CO₂の削減につながる。

「えんたくん」でのまとめ



〈要約〉

ごみの削減 (Reduce)

不要なものを減らす、買いすぎない・必要なものだけ購入、使い捨て製品の削減(マイバッグ・マイボトル)、エコな選択(環境に優しい素材の利用)、企業・自治体の取り組み、使い捨てプラスチック削減キャンペーン、ごみ分別の強化、地域ごとのリサイクル活動推進

再利用・リメイク (Reuse)

家庭での再利用、古着をリメイク(バッグ、小物へ)、家具の修理・再使用、紙の再利用(裏紙・メモ帳)、寄付・シェアリング、不要品を必要な人へ(フリーマーケット、リユースショップ)、本やおもちゃの寄付(学校・施設へ)、シェアリングエコノミー(レンタル、シェアサービス)

リサイクル (Recycle)

資源としての再活用、紙・段ボールのリサイクル、プラスチックの再資源化、生ごみの堆肥化(コンポスト)、新しい素材の活用、ペーパーレス化の推進、再生素材を使った製品開発(リサイクル衣料、アップサイクル商品)

環境教育・啓発

学校での環境教育、ごみ分別やリサイクルの授業、ワークショップ(エコ体験、手作り活動)、地域活動、クリーンアップイベント(ごみ拾い活動)、環境問題の啓発キャンペーン

緑グループ

選んだ取組項目：【教育・情報発信】自らの行動が料金の節約や健康づくりにもつながり、モチベーションが維持できることが大切。

「えんたくん」でのまとめ



〈要約〉

環境教育の推進

学校教育、環境問題に関する授業、ごみの分別・リサイクルの学習、体験型学習（ワークショップ、エコ活動）、地域活動、クリーンアップイベント（ごみ拾い）、環境啓発キャンペーンの実施、地域新聞や広報誌での情報発信

情報発信の手段

デジタル活用、SNS やウェブサイトでの啓発活動、環境アプリの活用（リサイクルマップ、エコ活動の記録）、オンラインイベント・ウェビナー、オフラインでの発信、チラシやポスターでの啓発、地域の掲示板での情報共有、口頭での伝達（地域の集まり、学校説明会）

持続可能な生活習慣の啓発

エコな移動手段、近くへの移動は徒歩や自転車を利用、自動車の利用を減らす、衣類・生活用品の工夫、重ね着で冬服の数を減らす、不要な服のリユース（寄付、リメイク）、必要以上に物を買わない、エネルギーと資源の節約、節電・節水の習慣を身につける、使い捨てプラスチックを減らす（マイボトル、マイバッグの活用）

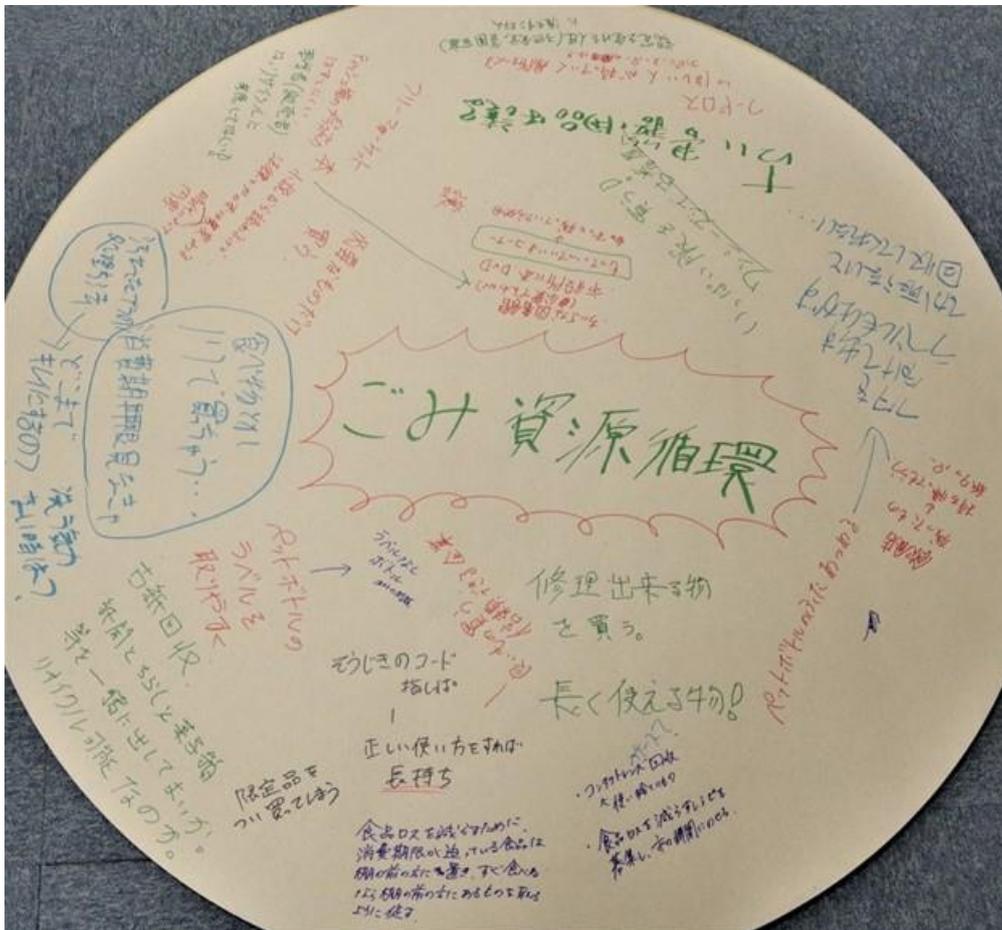
他分野との連携

企業との協力、環境配慮型の商品開発、リサイクル素材の活用促進、自治体・行政の取り組み、環境施策の広報活動、エコ活動の支援制度

黒グループ

選んだ取組項目：【ごみ・資源循環】必要な分だけ買うようにする。

「えんたくん」でのまとめ



〈要約〉

廃棄物の削減

長く使える物を選ぶ、耐久性の高い商品を購入、修理可能なものを選ぶ、消耗品の無駄遣いを減らす、適正な使用方法を知る、正しい使い方で長持ちさせる、メンテナンス方法の共有

再利用・リユースの促進

修理・再生の活用、修理できるものは直して使う、修理サービスの充実（修理カフェ、ワークショップ）、中古品の活用、古着や中古家具のリユース、フリーマーケット、シェアリングサービスの利用、不用品の寄付や交換（地域の掲示板、オンラインコミュニティ）

リサイクルの推進

適切な分別と回収、リサイクル可能なものを正しく分別、回収ボックスの設置（ペットボトル、古紙、衣類など）、ラベルをはがす・洗うなどの準備を徹底、再生資源の活用、リサイクル素材を使った商品を購入、再生資源を活用した製品開発の促進、企業・自治体との協力

消費行動の見直し

ごみを減らす買い方、必要な分だけ買う（過剰包装を避ける）、食品ロスの削減（使い切る、計画的に買う）、詰め替え商品・量り売りの活用、環境配慮型の選択、エコマークやサステナブル認証のある商品を選ぶ、プラスチック削減（マイバッグ、マイボトルの利用）

(3) 2日目のプログラム及びグループワークの進め方

① プログラム

- 14:00 オリエンテーション (10分)
- 14:10 情報提供・ルール説明 (5分)
- 14:15 グループワーク (130分) 休憩 10分を含む
- 16:25 休憩 (10分)
- 16:35 全体共有 (35分)
- 17:10 まとめ (20分)
- 17:30 終了

② グループワークの進め方

1日目の赤、青、黄、緑、黒のグループのメンバーで「えんたくん」を使用したポスターを作成しました。2日目の参加人数が1日目より少なくなったことから、赤と黒は合流して一つのグループにして、全部で4つのグループになりました。

ポスターの作成

1日目の内容をもとに次のことを話し合い、えんたくんでポスターを作成します。

【話し合うこと】

- 誰に呼びかける? ※市民または事業者もしくは双方に対してです。
- (呼びかける内容の)行動を起こすとこんな効果が期待できそう!
- (呼びかける内容に関連して)自分ならこんな行動をする!

【ポスター作成の緩いルール】

- ① えんたくんの中心に呼びかける内容のキャッチフレーズと絵を入れる。
今回、色紙などいくつか資材も準備をしているので自由にご活用ください。
- ② あとは自由です。

キャッチフレーズを考え、えんたくんの中心に書き込みます!

色画用紙や色紙に書いた絵を貼るのもOK!!

12

(4) 2日目のグループワークのまとめ（多摩市気候市民会議の成果）

赤黒グループ

選んだ取組項目：【食・消費】地元のお店で買うことで物流コスト、CO₂削減につながる。地域の経済がまわる。

【ごみ・資源循環】必要な分だけ買うようにする。

ポスター



〈赤黒グループのポスターの解説〉

このポスターは、「食品ロスをなくそう！」をテーマにしつつ、1年を12か月に分け、それぞれの旬の食材を示しています。呼びかける相手は、市民等です。

1 メインテーマ

「なくそうフードロス！」（食品ロスをなくそう！）

- ・地産地消（地域の食材を消費する）
- ・ムダのない料理（無駄をなくす調理法）

2 年間カレンダーと旬の食材

円形のデザインは時計ではなく1年（12か月）を表しており、それぞれの月の旬の食材が描かれています。旬の時期から外れた食材は外国から輸送したり、ハウス栽培を行うなど、余計なエネルギーを使用して作られています。

3 食品ロス削減のためのメッセージ

食品ロスを減らすための具体的なアイデアが記されています。

① 食材を無駄にしないための習慣

- ・「もらう習慣」→余った食品をもらう
- ・「あげる習慣」→使わない食品を他人に譲る
- ・「買いすぎに気をつけよう！」→必要な量だけ購入

② 料理の工夫で食品ロス削減

- ・「ムダのない料理」→旬の食材を活用して工夫する
- ・「料理に工夫をして食品ロスを減らそう！」→余った食材を活用

③ フードロス対策の取り組み

- ・「フードバンクのフードドライブなどを使ってみよう！」→食品を寄付する活動を活用

4 まとめ

このポスターは、旬の食材を活用することが食品ロス削減につながるというメッセージを市民等に伝えています。

- ・旬の食材を知ることで地産地消が進む
- ・無駄のない料理を意識することで食品ロスが減る
- ・フードバンクなどの活用で食べ物を大切にできる

青グループ

選んだ取組項目：【ごみ・資源循環】使いたい人に譲る、寄付をする、リメイクする。

ポスター



〈青グループのポスターの解説〉

このポスターは、「未来へバトンを」というテーマで、物を大切に使い続けることを市民に呼びかける内容になっています。

1 メインテーマ

「未来へバトンを」

- ・ 次の世代へ寄付（不要になったものを次の世代に引き継ぐ）
- ・ リメイク（古いものを新しく生まれ変わらせる）

2 ビジュアル構成

- ・ 中心に2つの手（大きなオレンジの手と小さなベージュの手）
- ・ オレンジの手→未来へとつなぐ象徴
- ・ ベージュの手→受け取る次世代
- ・ 背景に様々な物品のイラスト（寄付やリメイクの対象となるもの）

3 「次の世代へ寄付」

不要になったものを捨てずに寄付することで、他の人に役立ててもらおうという考え方。

寄付できるもの

- ・ 制服（学生服・セーラー服）、かばん（バッグ）、文房具（筆記用具・ノート）、道具（新学期に必要なもの）、自転車（上級生のおさがりを次の世代へ）

4 「リメイク」

古くなったものを新しく作り直して使うことで、廃棄を減らす工夫。

リメイクできるもの

- ・ ボロボロの服→ぞうきん
- ・ 使わなくなったランドセル→財布
- ・ 空きびん→花びん
- ・ 壊れた靴→修理して再利用

5 まとめ

このポスターは、「物を大切にし、次の世代へつなぐ」というメッセージを市民に伝えています。

- ・ 不要なものを寄付することで、他の人が活用できる
- ・ リメイクを通じて、新たな形で再利用できる
- ・ 無駄を減らし、環境を守ることにつながる

黄グループ

選んだ取組項目：【ごみ・資源循環】 ごみの削減が CO₂の削減につながる。

ポスター



〈黄グループのポスターの解説〉

このポスターは、「わらしべ循環（食べ物編）」として、食の生産から消費、廃棄までのサイクルを示しています。呼びかける相手は、主として市内の農家です。

1 メインテーマ

「わらしべ循環（食べ物編）」

- ・食の生産・流通・消費・廃棄のサイクルを持続可能にする
- ・資源を無駄にせず、環境に優しい食の循環を目指す

2 循環の流れ

① 生産

- ・地産地消の推奨
- ・地元で生産された食品を利用し、輸送による環境負荷を軽減
- ・環境に優しい農業（堆肥などを活用し、持続可能な農業を実践）

② 出荷

- ・輸送手段の工夫（水素自動車を活用し、二酸化炭素排出を削減）
- ・環境負荷の少ない物流システムを構築

③ 販売

- ・効率的な販売方法（無人販売所を活用し、地元の食材を購入）
- ・必要な分だけを購入し、食品の無駄を減らす

④ 消費（食べる）

- ・フードロスを減らし、資源を有効活用
- ・適量を調理し、食べ残しを減らす

⑤ 廃棄と再利用

- ・生ゴミの適切な処理
- ・コンポスト（堆肥化）を活用し、再び農業に還元
- ・「全てをゴミにせず、資源として活用する」意識を持つ

3 まとめ

「わらしべ循環（食べ物編）」は、「生産→出荷→販売→消費→廃棄→再利用」というサイクルを意識し、食べ物を無駄にせず活用する仕組みを提案しています。

- ・地元の食材を選ぶことで、環境負荷を軽減
- ・水素自動車などのクリーンエネルギーを活用し、輸送の二酸化炭素排出を削減
- ・食べ残しを減らし、生ゴミは堆肥として再利用
- ・「食を大切にしながら、環境にも配慮する循環型社会」を目指す

〈緑グループのポスターの解説〉

このポスターは、「地球にも自分自身にもやさしい世界」というテーマで、環境や健康に配慮したライフスタイルを市民に提案しています。

1 メインテーマ

「地球にも自分自身にもやさしい世界」

- ・環境に配慮（エコな移動手段・フードロス削減・節約）
- ・健康的な生活（運動・バランスの良い食事）
- ・持続可能なライフスタイル（無駄を減らし、未来に良い影響を与える）

2 主要なキーワードと内容

ポスター内のキャラクターごとに、環境・健康に関する提案が整理されています。

- ① 身の回りの節約（第1コース カール君）
 - ・「エコなライフスタイル」
 - ・重ね着で暖房の使用頻度を減らす
 - ・不要なものは買わない（買うときはよく考える）
- ② 健康と運動の推奨（第2コース パウエル君）
 - ・「無理なく運動しよう！」
 - ・身の回りの移動を工夫し、自然に運動量を増やす
 - ・徒歩や自転車を利用し、健康維持
- ③ 移動手段の工夫（第3コース ボルト君）
 - ・「車での移動はなしに！」
 - ・短距離の移動では車を使わず、徒歩や自転車を活用
 - ・自動車の使用を減らし、二酸化炭素排出を抑える
- ④ 人生100年（第4コース サニー君）
 - ・節約、健康でハッピーライフ

3 まとめ

このポスターは、「環境と健康を両立させるライフスタイル」を市民に提案しています。

- ・エコな行動が、地球環境を守るだけでなく、自分の健康にもつながる
- ・無駄を減らすことが節約にもなり、持続可能な生活を支える
- ・「人生100年時代」に向けて、誰もが実践できる工夫を取り入れる

(5) 多摩エコ・フェスタ2025での展示・発表（成果の展示・発表）

多摩市気候市民会議で4つのグループ（赤黒・青・黄・緑）が作成したポスターは、令和7年3月1日（土）と2日（日）の2日間、パルテノン多摩で開催した「多摩エコ・フェスタ2025」で展示するとともに、同催しの一つTAMA サステイナブル・アワードの中で、多摩市と3人の参加者によるポスターの発表を行いました。

ポスターの展示の様子



ポスターの発表の様子



多摩エコ・フェスタ

毎年、環境に係る団体や企業・学校が集まり、団体や市民の方々との交流を通して楽しみながら環境への学びを深める催しです。パネルによる展示を中心に、工作や体験型のイベントなどを行います。

TAMA サステイナブル・アワード

毎年、多摩エコ・フェスタの中で行われるイベントです。多摩市内で環境にやさしい活動を行う団体・企業・学校とその取り組みを紹介し、表彰します。

6 気候 YOUTH 会議（多摩市、府中市、日野市の共催）

（1）実施概要

	1 日目	2 日目
日時	令和 7 年 3 月 9 日（日） 13 時 30 分～17 時 00 分	令和 7 年 3 月 16 日（日） 13 時 30 分～17 時 00 分
場所	東京たま未来メッセ 第 4 会議室	東京たま未来メッセ 第 2 会議室
参加人数	26 人 (多摩市 10 人、府中市 11 人、日野市 5 人)	26 人 (多摩市 6 人、府中市 12 人、日野市 8 人)
概要	多摩市、府中市、日野市の高校生から 24 歳までの若者がクエストのタネを出し合い、100 のクエストを決める試みを行いました。	
	参加者が 6 グループに分かれて、5 年後の未来を考え、さらにそれを実現するための「ひとりクエスト」と「コラボクエスト」を 5 つずつ考え、最後に参加者全体で各グループが発表したクエストに対してシールで投票しました。	参加者が 6 グループに分かれて、各グループが 20 個ずつクエストを決めて、それらのクエストの実施により実現する未来をまとめました。

クエスト

今回の気候 YOUTH 会議では、気候変動対策のためにできる、やるべき、アクション、取組、行動を「クエスト」と言い、自分ひとりのできる「ひとりクエスト」と誰かと協力してする必要がある「コラボクエスト」の 2 種類を設定しています。

- ① 1 日目のプログラム クエストのタネを出し合おう
 - 13:30 気候 YOUTH 会議の目的と進め方（10 分）
 - 13:40 インスピレーショントーク（30 分）
 - なぜ若者が気候変動対策に取り組むの？
 - Climate Youth Japan 代表 堀岡 茜李 氏
 - 14:10 グループワーク 1：感想や思いを共有しよう（60 分）
 - 15:10 休憩（10 分）
 - 15:20 グループワーク 2：クエストのタネを出し合おう（70 分）
 - 16:30 全体共有（20 分）
 - 16:50 全体シール投票（5 分）
 - 16:55 まとめ（5 分）
 - 17:00 終了

- ② 2 日目のプログラム 100 のクエストを決めよう！
 - 13:30 気候 YOUTH 会議の目的と進め方、前回の振り返り（10 分）
 - 13:40 情報共有：企画づくりのポイントを学ぼう！（45 分）
 - 地元企業の取組から学ぼう！
 - 株式会社京王 SC クリエイション 加藤 潔英 氏
 - 14:25 休憩（10 分）
 - 14:35 グループワーク：100 のクエストを決めよう！（110 分）

16:25 全体共有 (30分)

16:55 まとめ (5分)

17:00 終了

(2) 1日目及び2日目のグループワークのまとめ（気候 YOUTH 会議の成果）

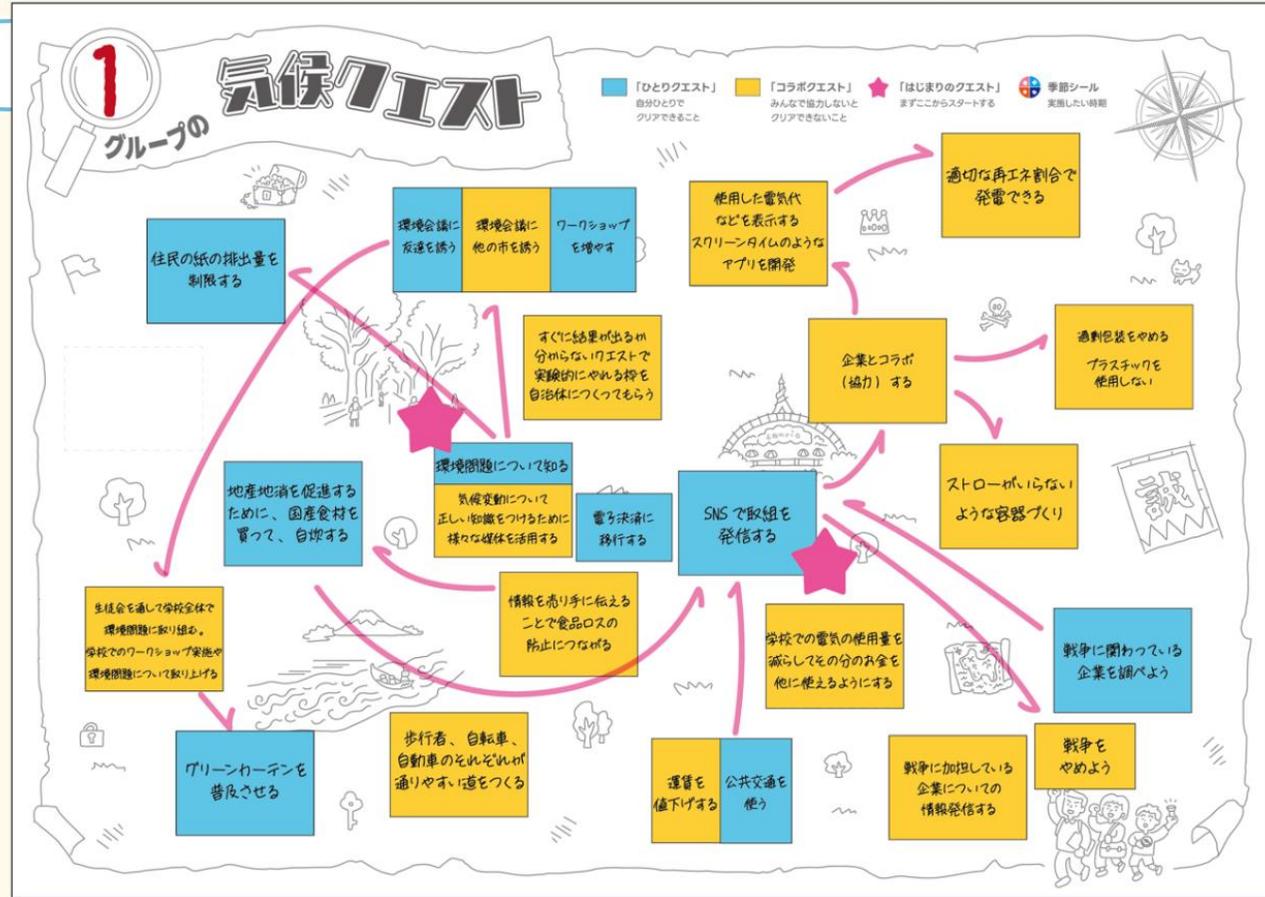
気候YOUTH会議の成果：100のクエストを決めよう！

1 グループ



実現したいミライ

- 気候変動や環境問題を学ぶ機会が増えている社会
- 気候YOUTH会議のような若者の気候変動会議が全国に広まっている社会
- 再生エネルギーが拡く活用され、適正な地球温度が保たれている社会

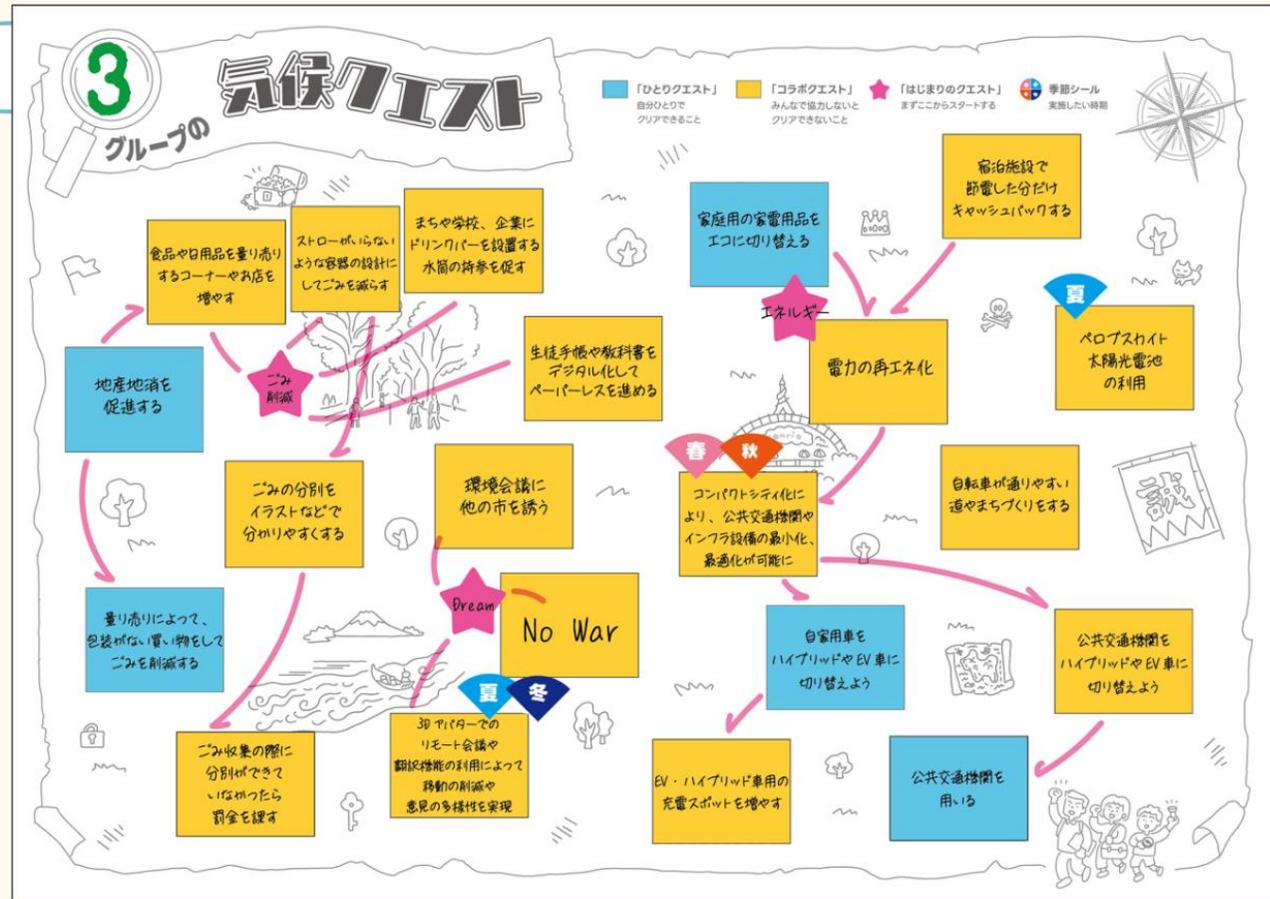


3 グループ



実現したいミライ

- ❑ 若者が委員会を立上げ、話し合った内容が自治体や国の政策に反映される社会
- ❑ ごみ問題の解決方法がたくさんある社会
- ❑ 再生エネルギーが広く活用され、適正な地球温度が保たれている社会
- ❑ 公共交通手段で移動しやすい社会

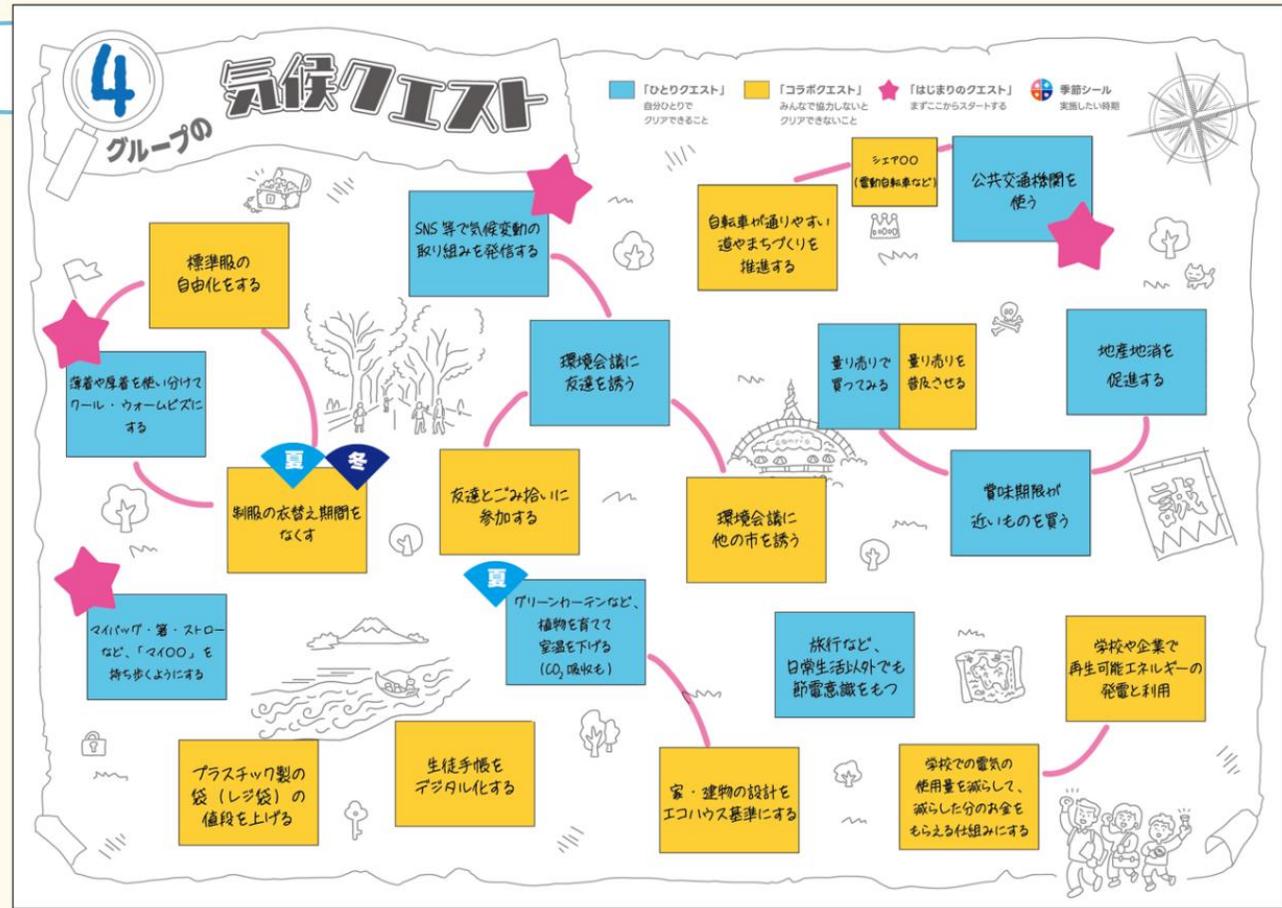


4 グループ



実現したいミライ

- 気候YOUTH会議のような若者の気候変動会議が全国に広がっている社会
- ごみ問題の解決方法がたくさんある社会
- 再生エネルギーが広く活用され、適正な地球温度が保たれている社会
- 公共交通手段で移動しやすい社会

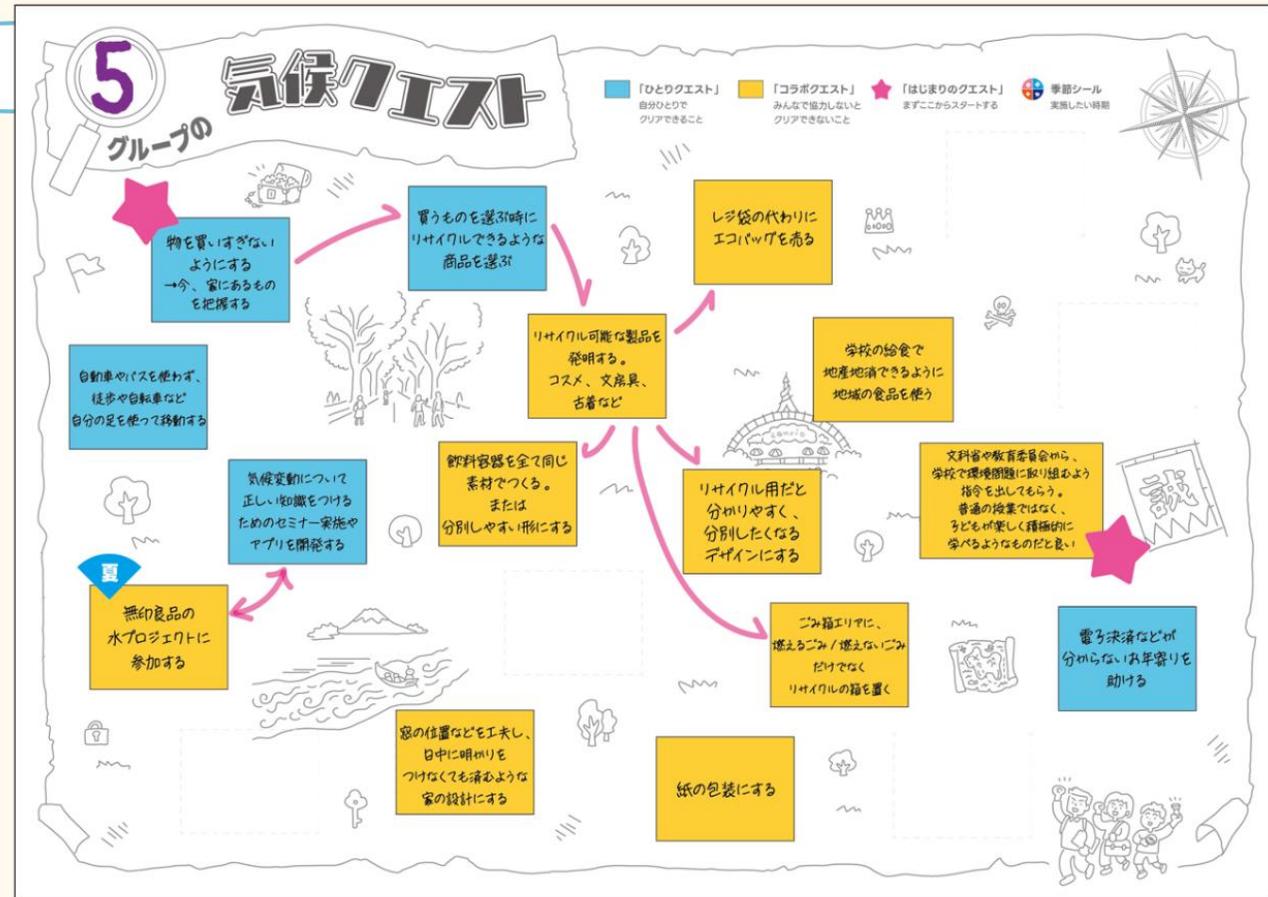


5 グループ



実現したいミライ

- 気候変動や環境問題を学ぶ機会が増えている社会
- ごみ問題の解決方法がたくさんある社会
- 公共交通手段で移動しやすい社会

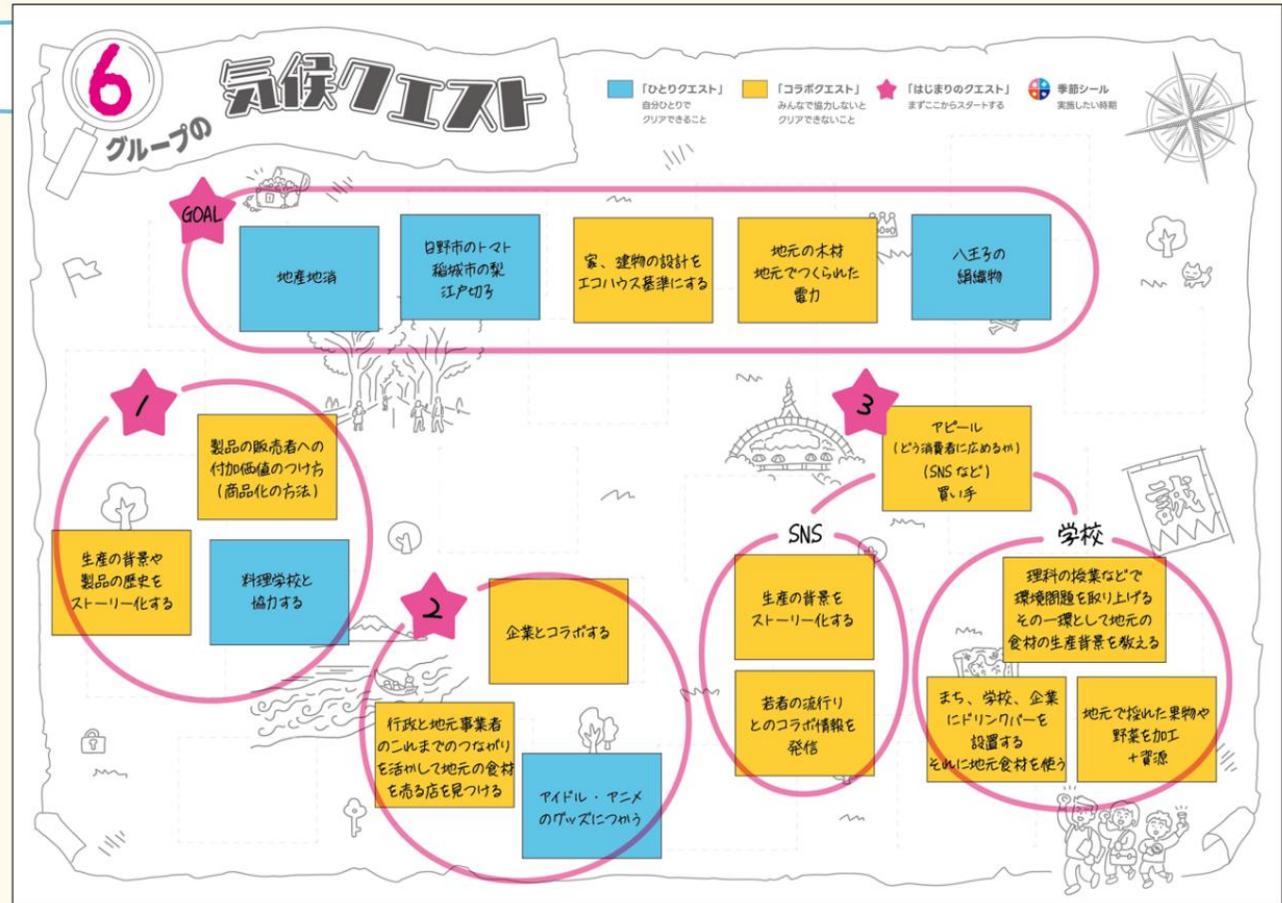


6 グループ



実現したいミライ

- 若者が委員会を立ち上げ、話し合った内容が自治体や国の政策に反映される社会
- 継続力をつけて5年後に向けてクエストを実現している社会
- 意識しなくても気候変動対策を加速させる制度が整っている社会
- 日本の文化や自然環境を活かした気候対策がされている社会



① 1日目の様子



② 2日目の様子



7 アンケートの結果

(1) 合同気候市民会議と多摩市気候市民会議についてのアンケート

回答者 18 人／対象者 27 人（多摩市気候市民会議参加者）

	設問（選択式回答）	回答選択肢	回答者数
Q2	多摩市気候市民会議の結果を事務局と一緒に発表をお願いできる方を募集します。（必須）	1 発表してもよい	2 人
		2 対応は難しい	16 人
Q3	日野市との合同気候市民会議の経験を（多摩市気候市民会議に）活かすことができましたか。（必須）	1 活かすことができた	11 人
		2 どちらかといえば活かすことができた	5 人
		3 どちらでもない	1 人
		4 どちらかといえば活かすことができなかった	0 人
		5 活かすことができなかった	0 人
		6 参加できなかった	1 人
Q4	多摩市気候市民会議の満足度をお聞かせください。（必須）	1 大変満足した	11 人
		2 満足した	5 人
		3 どちらでもない	2 人
		4 あまり満足していない	0 人
		5 満足していない	0 人
Q5	多摩市気候市民会議にまた参加したいと思いますか。（必須）	1 ぜひ参加したい	6 人
		2 参加したい	9 人
		3 どちらでもよい	2 人
		4 あまり参加したくない	1 人
		5 参加したくない	0 人
Q6	えんたくんを使用した感想をお聞かせください。（複数選択可）（必須）	1 楽しく対話をすることができた	10 人
		2 意見が見える化できて発想を広げることができた（言葉の空中戦がなくなった）	7 人
		3 今後もえんたくんを使用したい	3 人
		4 不思議な連帯感が生まれた	6 人
		5 えんたくんが不安定で文字を書きにくかった	6 人
		6 通常のワークショップで使用する模造紙のほうがやりやすかった	1 人
		7 人と人の距離が近く、緊張した	1 人
		8 その他（ ）	0 人
Q7	今回は多摩市気候市民会議を2回開催しました。今後の参考として、年間どの程度であれば、負担なく参加できると思いますか。	1 1回から2回程度なら負担なく参加できる	11 人
		2 3回から4回程度なら負担なく参加できる	5 人
		3 5回以上でも負担なく参加できる	2 人
Q8	今後の参考とするため、開催の時期についてお聞かせください。（複数回答可）（必須）	1 4月から6月ごろが参加しやすい	9 人
		2 7月から9月ごろが参加しやすい	7 人
		3 10月から12月ごろが参加しやすい	5 人
		4 1月から3月ごろが参加しやすい	6 人
		5 その他（ ）	1 人

	設問（選択式回答）	回答選択肢	回答者数
Q10-1	気候市民会議に参加する前後での環境問題への関心度の変化について、お聞かせください。（参加前）（必須）	1 気候市民会議に参加する前から環境問題に関心があり、自ら行動もしていた（今後も行動していく）	12人
		2 気候市民会議に参加する前から環境問題に関心はあったが、自ら行動はしていない	6人
		3 環境問題に関心はない	0人
Q10-2	Q10-1 で2又は3を選んだ場合は、参加後の環境問題への関心度の変化についてお聞かせください。	1 環境問題について、自ら行動も起こしていく（できることから実践する）	5人
		2 環境問題について、必要性は理解したが、自らの行動につなげるのは難しい	1人
		3 環境問題について、必要性を理解することはできなかった（関心はない）	0人
		4 その他（ ）	0人

	設問（記述式回答）	回答内容	
Q1	お名前を記載してください。（必須）	—	
Q4	多摩市気候市民会議の満足度をお聞かせください。 1 大変満足した 2 満足した 3 どちらでもない 4 あまり満足していない 5 満足していない <u>そのように感じた理由をお聞かせください。</u>	1 <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな世代の方々と気候変動について話し合うことができました。 ・多くの意見が出て、ためになることが多かった。 ・このような交流を行う機会は減多にないため、とても新鮮であったから。 ・世代の違う人々が集い、様々な意見が聞けた。 ・他の参加者との交流、協議が大変良かった。 ・他の方々と一緒に考え、それについて討論し、発表するというグループワークが良かった。 ・非常によくディスカッションできたと思う。なにより楽しかった。 	
		2 <ul style="list-style-type: none"> ・時間帯がちょうど良かったです。 ・色々なコミュニケーションをすることができた。 ・普段関わることの無い人と交流できた。 ・様々な方と出会えたのがよかったです。 	
		3	—
		4	—
		5	—
Q5	多摩市気候市民会議にまた参加したいと思えますか。（必須） 1 ぜひ参加したい 2 参加したい 3 どちらでもよい 4 あまり参加したくない 5 参加したくない <u>参加についての条件など、ご意見等がある場合には下記に記載をお願いします。</u>	1	—
		2	—
		3 <ul style="list-style-type: none"> ・多摩市役所に行きづらい。毎回時間が押すことはやめて欲しい。 ・特にないが、多摩市気候市民会議とは別に気候関係の講義を小中学校の内にもっと取り入れられたら良いなと思った。 	
		4	—
		5	—
Q7	今回は多摩市気候市民会議を2回開催しました。今後の参考として、年間どの程度であれば、負担なく参加できると思えますか。 1 1回から2回程度なら負担なく参加できる 2 3回から4回程度なら負担なく参加できる 3 5回以上でも負担なく参加できる	1	—
		2 <ul style="list-style-type: none"> ・ 回数は、よし。何を話すかが問題。 	
		3	—

	設問（記述式回答）	回答内容	
	<u>開催の回数について、ご意見等がある場合には下記に記載をお願いします。</u>		
Q8	<p>今後の参考とするため、開催の時期についてお聞かせください。(複数回答可)(必須)</p> <p>1 4月から6月ごろが参加しやすい</p> <p>2 7月から9月ごろが参加しやすい</p> <p>3 10月から12月ごろが参加しやすい</p> <p>4 1月から3月ごろが参加しやすい</p> <p>5 その他()</p> <p><u>時期について、ご意見等ある場合には下記に記載をお願いします。</u></p>	1	—
		2	—
		3	—
		4	・来年度は受験生なので、参加が難しいかもしれません。
		5	・特になし。
Q9	<p>令和6年度は、市民・事業者に行動変容を促す内容のポスターを作成しました。<u>今後、気候市民会議でどんなことができる(したい)と思いますか。自由に記載をお願いします。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナー様式で今回のデーターを利用し、市民に発表する機会を。 ・多摩エコ・フェスタ等でのブース展示。 ・地域活動。 ・他の市民に気候変動問題への共感を求めて行きたいです。 ・具体的な案を出しても実現困難な場合が多いため、もう少し企業の参加や交流を増やして欲しいと思った。 ・ゴミ拾い運動などの地域活動。 	
Q10-1	<p>気候市民会議に参加する前後での環境問題への関心度の変化について、お聞かせください。(参加前)(必須)</p> <p>1 気候市民会議に参加する前から環境問題に関心があり、自ら行動もしていた(今後も行動していく)</p> <p>2 気候市民会議に参加する前から環境問題に関心はあったが、自ら行動はしていない</p> <p>3 環境問題に関心はない</p> <p><u>1を選択した場合</u> <u>どのような行動を行っているか教えてください。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・レジ袋の使いまわし。 ・水、みどり等の活動をしている。 ・エコバック、マイボトル。 ・多摩市水辺の学校、多摩市民環境会議、さえずりの森。 ・ごみはあまり出さない、再利用するなど。 	
Q10-2	<p>Q10-1 で2又は3を選んだ場合は、参加後の環境問題への関心度の変化についてお聞かせください。</p> <p>1 環境問題について、自ら行動も起こしていく(できることから実践する)</p> <p>2 環境問題について、必要性は理解したが、自らの行動につなげるのは難しい</p> <p>3 環境問題について、必要性を理解することはできなかった(関心はない)</p> <p>4 その他()</p> <p><u>1を選択した場合</u> <u>どのような行動をしていく(実践する)か記載をお願いします。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知り合いに気候変動問題を語りたい。 ・元々買う手間を省くために家から水筒を持参していたりエコバッグも常に持っていたが、今後もこうした行動をしつつ、瓶を花瓶にするなどのもっと形として貢献出来る行動もしたいと思った。 ・エコバッグを持つことから始めたいと思います。 	

	設問（記述式回答）	回答内容
Q11	そのほか、全体を通して意見等ありましたら記載をお願いいたします。	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの意見が出て、有意義な時間がすごせた。 ・年間を通して、メンバーの相互理解ができるようにメール等で続けて頂けるとありがたいです。 ・何かインセンティブがない限り、結局暇な学生と高齢者ばかりになってしまっていると感じた。 ・この度はありがとう御座いました。またの機会に参加できたら嬉しいです。 ・市民会議は、楽しい取り組みと思います。 ・多摩市から30から50代の働き世代の参加者が少なかったのが少し残念だった。日野市の参加者は働き世代からの参加者もいたようなので、集め方を変えてもよいのではと思う。フード、エネルギー、モビリティなどテーマごとにもう少し細かい情報提供があってもよかった。スタッフのどの人が市職員なのか、民間の人なのか分かりにくかった。 ・このような場所を設けていただき、ありがとうございました。

（2）気候 YOUTH 会議についてのアンケート

回答者 4人／対象者10人（多摩市参加者）

※アンケートは府中市、日野市と合同で実施。本報告書には多摩市参加者回答分のみ記載。

	設問	回答選択肢	回答者数
(1)	会議に参加する前、気候変動についての程度関心がありましたか？	1 ほとんど関心がなかった	0人
		2	0人
		3 どちらとも言えない	0人
		4	3人
		5 非常に関心があった	1人
(2)	会議に参加した後、気候変動についての関心や理解は変わりましたか？	1 逆に関心が薄れた	0人
		2	0人
		3 どちらとも言えない	0人
		4	1人
		5 とても深まった	3人
(3)	今回の会議で学んだことや印象に残ったことを自由に記入してください。 (記述式)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身が行動をして、周りの意識などを変えていく必要があると学びました。 ・東京大学の江守教授のお話がとても印象に残っている。 	2人
(4)	今回の会議の内容には満足しましたか？	1 不満	0人
		2	0人
		3 どちらとも言えない	1人
		4	1人
		5 とても満足	2人
(5)	満足度の理由を簡単にお聞かせください。 (記述式)	<ul style="list-style-type: none"> (4)「5 とても満足」と回答した理由 ・他の市の方々と話すことで、より多くの意見が出ていきより視野が広がったからです 	1人

	設問	回答選択肢	回答者数
(6)	会議のテーマや運営について、改善点やご意見があればお聞かせください。 (記述式)	—	0人
(7)	今後、気候 YOUTH 会議に継続して参加したいですか？	1 全く参加したくない	0人
		2	0人
		3 どちらとも言えない	1人
		4	0人
		5 ぜひ参加したい	3人
(8)	気候 YOUTH 会議を実施した場合、参加しやすい時期はいつ頃ですか？ (複数選択可)	春休み	2人
		夏休み	1人
		冬休み	1人
(9)	そのほか、気候変動に関するどのような活動やイベントに興味がありますか？ (複数選択可)	勉強会（学ぶ機会）	3人
		若者同士での意見交換・ディスカッション、ワークショップ（考える機会）	3人
		フィールドワーク（現地見学・調査、企業や活動している人へのインタビューなど）	3人
		環境関連の地域活動やイベントへの参加	3人
		活動の発信	2人
		実践的なプロジェクトの実施	2人
		とくにない	1人
		その他（自由記述）	0人
(10)	今回のような活動やイベント等について参加したいと思った時に、どのように情報を集めていますか？（複数選択可）	SNS（Instagram、(旧 Twitter) TikTok、YouTube など）	3人
		LINE（公式アカウント・グループ・個別メッセージなど）	1人
		先生・先輩・友人からの紹介・口コミ	3人
		学校やゼミ・サークルの掲示・連絡網	2人
		チラシ・ポスター（駅・まちの掲示板など）	1人
		主催者の公式ウェブサイトやブログ	2人
		ニュースアプリ（SmartNews・Yahoo!ニュースなど）	2人
		テレビ・ラジオ	1人
		集めていない	0人
		その他（自由記述）	0人